

## (2) 村名の変遷と二つの中山（表2）

最も古い記録として中川地区の地名が現れるのは、天文七年（1538）御段銭古帳写の「中山」である。続いて天文二十二年（1553）晴宗公采地下賜録（以下「下賜録」と言う）に「やしろ中山」と「かけいり中山」、性山公治家記録の天正二年（1574）に「川樋」の地名が出てくる。このうち、中山（南陽市元中山及び上山市中山）については、下賜録に見るように当初から二つの中山が存在し、村名や所属が頻繁に変わるなど煩雑であるため中川の地区名について下記及び表2にその変遷を記す。

下賜録では「やしろ（屋代）中山のうち、一たいの在け、一うきめん（浮免）三千かり、一ひかけ在け」という記述が見られる。「やしろ中山」という地域があり、その中に「たいの在家（代の在家）」と「ひかけ在家（日影在家）」が存在することがわかる。この「代」と「日影」は現在の南陽市元中山にある地名であり、「やしろ（屋代）」は現在の高畠町で当時の伊達氏の拠点の一つ高畑城があった。この史料から伊達晴宗の時代には、現在の南陽市元中山が「屋代中山」と呼ばれていたことが分かる。さらに同史料には「かけいり（掛入）中山」の地名が出てくる。掛入は、現在の上山市中山にある巨岩の掛入石に由来すると思われ「かけいり中山」は現在の上山市中山で当時は「掛入中山」と呼ばれていたと考えられる。

また屋代中山の「代の在家、日影在家」は赤湯を拠点とする粟野氏、「五軒在家」は高畠の小梁川氏、掛入中山の「館の在家、うちかた在家」は宮内を拠点とする大津一族の所領という違いもあった。

この地名の違いは、その後も引き継がれたと見られ、「かけいり中山」「掛入石中山」は米沢藩時代の史料にも度々現れる。一方で邑鏡や村目録のように村々が列記される際の村名は「中山」となっており、中山の内にある掛入中山は「掛入（欠入）」や「掛入石」を冠して違いを明確にする必要があった地域と思われる。

明治二年に米沢藩の4万石の振替上地で「小岩沢村、川樋村、中山村」が酒田民政局に属することになった。天文二十二年に「屋代中山」と称された村々が再び屋代にあった酒田民生局高畠出張所の管轄になったのである。東置賜郡史ではこれに関連して「中山村を分離して中山村・元中山村の2村とした」と記してあるが、今回調査した史料の範囲では明治二年段階で元中山村の村名は確認できないので、これは郡史が書かれた時点での元中山村という意味であり、米沢藩掛入石中山と酒田民生局中山に分かれたことを指すのであろう。

明治三年以降、小岩沢村、川樋村、川樋新田村、中山村（現在の元中山）は山形県に属し「掛入石中山」は米沢藩、米沢県を経て置賜県に属している。明治九年に山形県に置賜県と鶴岡県が合併した際には、三小区に属していたのは中山・小岩沢・川樋、川樋新田であり、六小区に属していたのは中山・松沢・金沢・赤湯…（略）となっており、ここでも2つの中山が存在していたことがわかる。明治初年～明治二十二年市町村ノ沿革（県史近現代史料1）では、「明治十九年三月五日一ツノ中山村ヲ元中山ト改ム」とあり、「一つの」と冠していることから、2つの中山村の一方を元中山村に改名したことが伺え、これ以降に南陽市側の中山を元中山と呼ぶことが定着したものと思われる。

年		出来事及び出典	上山市	南陽市			
			中山	元中山	小岩沢	川樋	新田
天文7年	1538	御段銭古帳写	中山				
天文22年	1553	晴宗公采地下賜録	かけいり（掛入）中山 たて（館）の在家、うちかた在家	やしろ（屋代）中山 たい（代）の在家、ひかけ（日影）在五軒在家			
天正2年	1574	伊達輝宗日記 最上義光の兵が川樋侵攻、防戦（治家記録）				川とい	
天正13年	1585	北条段銭帳				置賜郡北条荘川樋	
文禄3年	1594	高目録帳	中山、日影		小湯澤	河とい	
慶長年間	1596 ～ 1614	邑鑑	中山村		小立沢村	河樋村	
寛永15年	1638	懸入石中山之在釜渡戸高帳	掛入石中山釜渡戸				
寛永年間	1624 ～ 1643	寛永年間に川樋村から分村（角川日本地名辞典）					新田
元禄4～ 元文4年	1691 ～ 1739	山林台帳御林方勤	掛入石中山釜ノ渡戸		小岩沢	川樋	
享保2年	1717	掛入石中山一村（絵地図）	掛入石中山				
享保14年	1729	人頭暇出（赤湯町史）	欠入中山村、掛入中山村				
明治2年6月	1869	掛入石中山は米沢藩に属す。中山（現在の南陽市元中山）は酒田民政局（高畠出張所管轄）に属す。	掛入石中山（米沢藩）	中山（酒田民政局）	小岩沢（酒田民政局）	川樋（酒田民政局）	川樋新田（酒田民政局）
明治2年7月20日	1869	酒田民政局が酒田県になる。	掛入石中山（米沢藩）	中山（酒田県）	小岩沢（酒田県）	川樋（酒田県）	川樋新田（酒田県）
明治3年9月	1870	酒田県が山形県に属す。	掛入石中山（米沢藩）	中山（山形県）	小岩沢（山形県）	川樋（山形県）	川樋新田（山形県）
明治4年7月14日	1871	廃藩置県。米沢県となる。	掛入石中山（米沢県）				
明治4年8月2日		戸籍法区	掛入石中山（米沢県18区）	中山村（山形県第5区）	小岩沢村（山形県第5区）	川樋村（山形県第5区）	川樋新田村（山形県第5区）
明治4年11月2日		米沢県を置賜県に改める。	掛入石中山（置賜県）				
明治5年10月	1872	第1次大小区制	第18区掛入石中山	中山村（山形県第6大区小5区）	小岩沢村（山形県第6大区小5区）	川樋村（山形県第6大区小5区）	川樋新田村（山形県第6大区小5区）
明治6年	1873	大区小区制	元中山村（第九大区六小区）	中山村（第九大区三小区）	小岩沢村（第九大区三小区）	川樋村（第九大区三小区）	
明治9年8月28日	1876	山形県に置賜県と鶴岡県を合併	中山（山形県第九大区六小区）				
明治10年	1877	大小区制	中山村（駅）（第九大区六小区）	中山村（第九大区三小区）	小岩沢村（第九大区三小区）	川樋村（駅）（第九大区三小区）	川樋新田村（第九大区三小区）
明治11年7月	1878	大区・小区制をやめ、行政区画として郡町村が復活	中山村（駅）	中山村	小岩沢村	川樋村	川樋新田村
明治12年8月	1879	川樋村と新田村が合併	中山村（駅）	中山村		川樋村	
明治17年7月	1884	組合村	中山村	中山村		川樋村	
明治19年3月	1886	一ツノ中山村ヲ元中山村ト改ム	中山村	元中山村			
明治20年	1887	組合村	中山村（山形県第十五区）	元中山村（山形県第十五区）	小岩沢村（山形県第十五区）	川樋村（山形県第十五区）	
明治22年4月	1889	町村制施行により川樋、中山、小岩沢、元中山の各村を合併して中川村となる。	中川村中山	中川村元中山	中川村小岩沢	中川村川樋	
昭和30年	1955	町村合併で赤湯町になる。	赤湯町中山	赤湯町元中山	赤湯町小岩沢	赤湯町川樋	
昭和32年	1957	分町し、中山は釜渡戸を除いて上山市に編入	上山市赤湯町釜渡戸				
昭和42年	1967	町村合併で赤湯町が南陽市となる。	南陽市釜渡戸	南陽市元中山	南陽市小岩沢	南陽市川樋	

表2 中川地区の村の変遷